

地域とつながりともに歩んだ10年！

森の子児童センターに訊く

(大城代表) 私は児童館を運営しているけれど地域づくりがベースなんです。その一つの活動に防災を取り上げて、中学生の活動にしました。すると「普段の付き合いが大事だと思ふ。地域挙げての避難訓練が必要でよう」って言つたんです。その言葉ってすごく大事なんですね。「こども一人の意見でも大人が、地域が動く、つながり感のある地域づくりがしたい」と思う言葉そのもので嬉しかったです。他者を気に掛ける人ととのつながりが、安全につながる、地域づくりの手段として、防災を取り上げました。



(質問者) 令和6年度に防災まちづくり大賞を受賞されています。このも一人の意見でもたくさんの地域の大人たちが動いてくれる、それがすごいですね。こどもたちが成長する上でも、とても大切な経験になつたと思っています。

自分たちの地域は自分たちで何とかできる市民であるといいよねというのが市民性教育についていきます。これつてつながり感がないとできないんですよ。誰でも何か役に立つことをしたいというのを、心の奥底に持つていると思うんです。それをどうしたら良いか分からぬかもしれない。そういう場の拠点を児童館がつくったら、みんなどんどん動いていった。継続していくことで、それそれが自分ごととして考えて動く、というのを実現したいなと思っています。



第一回避難訓練まで

平成26年に開始された避難訓練は今年で10年目になる。取り組み当初、課題となつたのは、安謝川沿いの勢理

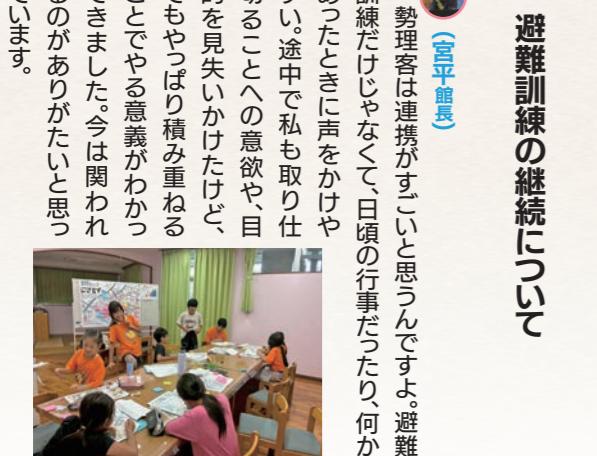
客地域は、海拔2メートルの地域があり、津波発生時、地域の園児や住民、要配慮者をどう避難させるかと

いう点。そこで、児童館を利用する学生が地域をくまなく散策し、「地域避難マップ」を作成。避難時に手助けが必要な要援護者の状況も一件一件まで調査し、「地域あげた。中学生は約2千軒にチラシを戸別配布し、大人たちは行政との連携や会場運営を担うなど分担して進め、第一回訓練を成功させた。訓練までに実行委員会を13回開催するなど、熱意をもつて準備にあつた。



(質問者) 今から地域防災に取り組みたい人達に対しても、アドバイスやメッセージをお願いします。

私たちがやっているのは、地域の課題に対して必要性を感じた訓練で、トップダウンではなくボトムアップ型。なのでここでやっている避難訓練がすべての地域に合うかというところではない、その地域に合つやり方があると思います。普段何気なく歩いている地域で、地図を持って、細やかに丁寧に意識して地域散策するのはどうでしょ？案外見てないけど、気づいていないことに驚きます。住んでいる所の地形や状況を知り、どんな災害が起きたらどうかと想像することで、何が安全で安全なのか気づきます。そのような取り組みで地域の安全、みんなの安全に気づき、その地域ならではの防災を考えなければいけないのではないかと思います。



避難訓練の継続について

(宮平館長) 勢理客は連携がすゝいと思うんですよ。避難訓練だけじゃなくて、日頃の行事だったり、何かあつたときに声をかけやすい。途中で私も取り仕切ることへの意欲や、目標を見失いかけてたけど、でもやっぱり積み重ねることでやる意義がわかつてきました。今は関わるのがありがたいと思つています。

(与那原さん) やっぱり最初はね、なんにも知らないんだですよ。テレビの情報を見様見真似でやってきて、毎年バージョンアップと反省を繰り返してきました。今だんだん完成に近づいてきているんですよ。基本的に学校の体育館が避難所だけれども、やつていくうちにキャパンティ足りないよね、ということになって、地域の第一避難所みたいな形で波之上自動車学校とタイアップしてやつたこともあります。



(質問者) 大切なのは地域を知ること

(大城代表) 口口ナのときには、実行委員のメンバーで続けるかどうしようかという話がありました。地域の避難訓練ができるない時期には、本当に避難訓練が必要なのかのアンケートを取ることになりました。地域の人からの意見もあり、これまでと違う取り組みができました。

(質問者) 今から地域防災に取り組みたい人達に対してのアドバイスやメッセージをお願いします。

私たちがやっているのは、地域の課題に対して必要性を感じた訓練で、トップダウンではなくボトムアップ型。なのでここでやっている避難訓練がすべての地域に合うかというところではない、その地域に合つやり方があると思います。普段何気なく歩いている地域で、地図を持って、細やかに丁寧に意識して地域散策するのはどうでしょ？案外見てないけど、気づいていないことに驚きます。住んでいる所の地形や状況を知り、どんな災害が起きたらどうかと想像することで、何が安全で安全なのか気づきます。そのような取り組みで地域の安全、みんなの安全に気づき、その地域ならではの防災を考えなければいけないのではないかと思います。

米軍と浦添市の合同避難訓練開催

大津波警報が出たら、あなたはどう行動しますか？

西海岸への大津波到達を想定した訓練への参加者を募集します。

応募要項

- ・訓練 11月18日(火)午前9時避難開始(約1時間後到着予定)
- ・ルート ①小湾ルート(西洲地区等～キャンプキンザー第1ゲート～神森小学校)
②港川ルート(港川崎原地区等～キャンプキンザー第3ゲート～港川小学校)



応募フォーム▲詳しくはこちる▲

“逃げ遅れゼロへ！”

自ら歩き避難ルートを確かめることのできる徒歩避難訓練に加え、災害時要支援者が取り残されないための車両避難訓練を行います。避難ルートの選択肢の一つとして、キャンプ・キンザー内を通り避難してみませんか？同日午後には市役所中庭付近で防災フェアを実施します。皆さまぜひご参加ください！

さまざまな場面で生きる人ととのつながり

共助の支え合う力

命を救うのは災害発生から数時間が勝負ですが、発災直後は道路が通れないなど公助(消防・警察・自衛隊などの支援)が間に合わない場合があります。また避難所では、多くの人と同じ場所で一緒に過ごすため、さまざまな場面で協力し合いながら生活していく必要がありますほか、不安や孤独といった精神的ストレスが災害関連死につながることもあります。

◆隣近所と顔見知りになるだけでも、大きな助けになります。普段から人ととのつながりを大切に、地域の皆さんと一緒にになって防災活動に取り組む「自主防災組織」の活動や、自治会の防災訓練へ参加しましょう。